

## 三村委員提出資料

## 【リニアコライダーとは】

- ・「コライダー」（＝光速近くまで加速した粒子を正面衝突させ、ビッグバン直後の状態を再現し、新しい粒子が生まれるのを観察する加速器）をリニア（直線状）に並べて粒子を衝突させる実験設備。

## 【国際リニアコライダー（ILC）】

- ・2000年代初頭まで、日米欧でそれぞれ独自のリニアコライダー計画を推進。
- ・その後、計画一本化の動きが生まれ、2004年に関係各国が国際協力によるILC建設で合意。
- ・様々の経緯を経て、2013年頃から、日本主導の誘致案（北上山地の地下）に国際的にも収斂。

建設費：約8,000億円、運転経費：年間約400億円

〔日本の負担は約2分の1か？ 建設期間は約10年〕

- ・米国政府（エネルギー省・国務省等）が2019年以降、国際会議等で関心と支持を表明
- ・欧州は「欧州素粒子物理戦略2020」において、「タイムリーに実現する場合には協働して取り組みたい」との踏み込んだ意思を表明。

## 【最近の国内での審議状況】

- ・2018年12月、文科省から審議の依頼を受けた日本学術会議が「日本に誘致することを支持するに至らない」と提言。
- ・2022年2月14日、文科省設置の有識者会議（第2期）が、「提案研究者コミュニティが希望する日本政府の関心表明を前提としたILC準備研究所段階への移行は時期尚早」との見解を取りまとめ。

## ILCの日本誘致の意義

- アジア初の大型国際科学技術拠点
  - ✓ 素粒子物理学は日本のお家芸（ノーベル賞受賞者11名を輩出）
  - ✓ 世界中から数千人規模の優秀な研究者が集まる
  - ✓ 知の拠点形成による国際的プレゼンスの向上
- 若者に夢と希望を与える
  - ✓ 「宇宙」や「物質」誕生の謎の解明への挑戦
  - ✓ 多分野における国際的な高度人材育成に貢献
- 社会課題解決の技術展開・イノベーションの創出
  - ✓ 医療機器開発、放射性廃棄物処理(短寿命化)等への期待
  - ✓ 最先端の研究者と関連企業の集積によるイノベーション
- 地方創生・デジタル田園都市（東北誘致の場合）
  - ✓ 経済波及効果は20年間で2.4～2.6兆円レベル
  - ✓ グリーンILC（里山、木造化、エネルギーの地域循環等）
  - ✓ 震災復興のシンボル

- ✓ 新しい資本主義・デジタル田園都市国家構想・震災復興のシンボルたりうるプロジェクト
  - ✓ 早期に省庁を超えた高次元の政治判断を図り、少なくとも正式な国際交渉・協議に踏み出すべき
- <参考> 中国は、世界最大級の加速器建設の準備を進めていると表明している

【参考】「リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟」（第一期報告書）

与謝野馨会長（当時）の挨拶文「日本・アジアに光あれ」（2007年11月）

今からさかのぼること約百三十八億年、ビッグバンとともにこの世界は生まれた。直後に誕生した素粒子や様々な力が現在のわれわれの世界を秩序付けるとともに、物質の根源をなしている。人類は、遠い昔から物質の根源とは何かを問い、また宇宙に憧れを持ち、科学という手段を持ってその謎を解明しようとしてきた。そのひとつが加速器を用いた素粒子物理学の手法である。…

…わが国はこれまでもこの分野で世界をリードする成果を挙げており、今後ともその地位を維持していくことになると考えられている。…基礎科学の分野でわが国がその存在感をアピールしていくことは国民の誇りに繋がる。

国際リニアコライダー計画は、宇宙と物質の謎を解く次世代の基礎科学の世界拠点を築くものである。宇宙初期の高いエネルギーの状態を再現し、長年にわたる観測により宇宙の謎を解き明かし、新しい事前法則を発見することをその目的とする。

この計画の特徴は、「基礎科学（基礎物理学）」「長期計画」「大型国際拠点」であり、技術面においては「最先端技術」「ハイテクから職人芸まで総合工学」「医療・エネルギー・環境・情報に至る派生技術の源泉」という特徴を持つ。凌ぎの時代である現代のように集中と選択が必要である状況において、このような特徴をもつ当計画は社会的な意義も極めて高いと認識する。国際リニアコライダー計画のような国際的に極めて重要な事業に、日本が持っている力を最大限に発揮して取り組んでいくということは、我々政治の世界にいる人間としてしっかり応援していかなければならない。

…まず我々政治家が国際リニアコライダー計画の重要性を理解する必要がある、「日本発宇宙行き」のビジョンのもと、有志の国会議員のみなさんと昨年六月に当議員連盟を設立した。

その目的は、わが国に大型基礎科学の最先端の国際拠点となるリニアコライダー研究所の建設を目指し、教育、科学技術、エネルギー、外交、安全保障等の観点から国家戦略として推進していくことである。…

この（註：当該報告書の）中では、政治が主導して、政府に対してどのように取り組んでもらうかという方針をたてるとともに、わが国が国際リニアコライダー建設を推進するための、調査および研究のために予算をどのように確保していくかを併せて考えている。昨今、歳出歳入改革を進めている中ではあるが、基礎科学研究分野の国家プロジェクトを省庁横断型政策として、何とかして実現できるよう取り組んでいきたいと思っている。